

カリタス ジャパン ニュース

ご復活おめでとうございます



北上川(石巻)を流れゆく灯籠

■ 巻 頭 言 ■ 死を越える共同体	2
■ 東日本大震災 ■ 東日本大震災から2年を迎えて	3
■ ハイチ地震 ■ 復興支援を継続しています	4
■ 啓発部会のページ ■ 自死について セミナーのご案内	5

隔月発行となりました。次号は6月号(5月20日発行)です。

死を越える共同体

成井大介(カリタスジャパン援助部会秘書)

震災後初めての夏、石巻の川開きという祭りに参加しました。カリタスのボランティアは灯籠流しを手伝い、子ども向けのブースを出し、夜は花火を見ました。石巻市は今回の震災で最も多くの死者、行方不明者が出たところですので、市民のほとんどの方々が家族や友人を亡くされているのだと思います。そこで夏祭りを震災後半年で行うということについては賛否両論あったそうですが、きっと複雑な思いで過ごされた一日だったと思います。

私は夜、丘の中腹にある石巻ベース(当時は教会)から、教会の神父さん、近隣の方々、ボランティア、ベーススタッフと、次々に打ち上がる花火を眺めていました。石巻市民でもない一支援者がこのようなことを書くのはふさわしくないかもしれませんが、「あの花火が打ち上がる空から亡くなられた方々は家族や友人を見守っているんだな」という、手を伸ばせば触れることもできるのではというほど確かな感覚というか、空気がまわりをつつんでいるような気持ちになりました。そして、昼に北上川に流した、市民のそれぞれの思いが綴られた灯籠は、間違いなく亡くなられた人の元に届くのだと感じました。石巻じゅうの人が、亡くなられた大切な人のことを複雑な気持ちで思いながら眺めた灯籠と花火。人の存在とか、つながりというのは、肉体的な生死を確かに越えて続き、育っていくものだと実感した日でした。

今回の震災でカリタスが支援する活動の中心は、「共同体作りのお手伝い」ですが、間違いなくこの共同体の中において、亡くなられた方々も重要な構成メンバーであるのだと思います。仏教、カトリック、様々な宗教や宗派、または無宗教と、信仰や死生観は違えど、大切な人の死を悼み、つながり続け、歩みを進めていくことにおいては何も違いはありません。仮設住宅でのお茶っこでは、今も3月11日のことが話されます。なぜ？ どうしてあの人が？ 何で自分じゃないの？ 様々な思いをはき出すその営みは、理解できない矛盾を腹の底に落とし、その思いを受け止めて大切にしてくれる人がいることを確かめ、亡くなった大切な人を心に留めながら、ともに歩んでいく道ではないかと思います。こうした共同体の歩みの一部として、カリタスがボランティアとともに、宗教の枠を越えて寄り添わせていただいているのは、本当に大きな恵みです。まさに、カリタスが目指している「一人ひとりの人が大切にされる社会の実現」に関わらせていただいているのだと思います。どうか、これからもこの歩みを続けていくことができるよう、多くの皆様にご協力いただけたらと思います。

なお、私事で恐縮ですが、私はこの3月末をもってカリタスジャパンの秘書を退任することになりました。今後は、所属する修道会の任務専従となります。7年の間支援者の皆様の協力をいただき、世界のカリタスと連携し、支援活動に携わってきましたが、世界の特に貧しく、抑圧された人々のための活動に関わらせていただいたのは、私には大変有り難い、もったいないことでした。支援者と、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、未熟さ故に行き届かなかった面も多々あったかと思いますが、この場を借りてお詫び申し上げます。今後とも、カリタスジャパンの活動のためにご支援下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

東日本大震災から2年を迎えて

●二周年活動報告書ができました

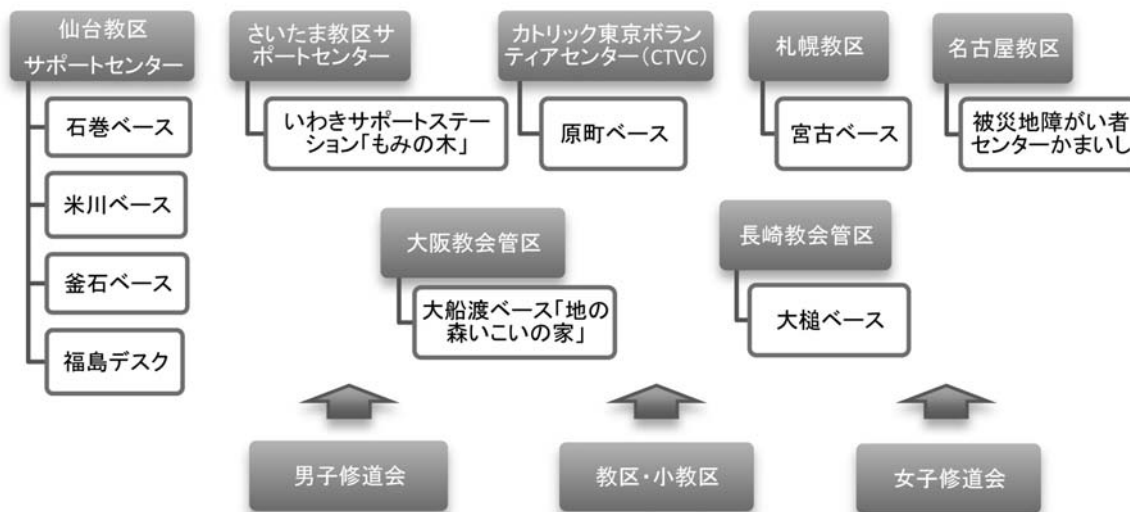
震災から二年目の活動をまとめた報告書を作成しました。被災地の現状、各地での復興支援の取り組み、今後の展望、募金収入と援助金支出の状況などを載せています。全国のカトリック教会、幼稚園、学校、男女修道会・修道院、募金くださった方、ボランティアに参加くださった方にお送りしています。追加が必要な方は、事務局までお申込み下さい。英語版もございます。



●今後ともご支援よろしくお願い致します！

今回の未曾有の大震災に対して、日本のカトリック教会は、〈日本の全カトリック教会を挙げて被災地を支援する〉という枠組みで取り組んでいます(通称“オールジャパン”)。被災当事者である仙台教区だけでなく、各教会管区や教区が現地に「ベース(活動の拠点)」を置き、スタッフを送って、被災された方々の生活再建と地元の復興のために、ボランティアとともに日々活動を続けているのです。全国の男女修道会もこれらのベースに各々人材を派遣し、活動を助けています。

“オールジャパン”の枠組み概念図



この各地の取り組みは、皆様からの募金によって支えられています。復興にはまだまだ時間がかかります。特に福島では、「いつ帰れるとも知れない」先の見えない不安などから、多くの人々は心も体も疲れ切っています。各地での活動を長期にわたって支援していくためには、これからも皆様のお力が必要です。どうか、被災地のことを忘れず、これからも息の長いご支援を心よりお願い申し上げます。

復興支援を継続しています

2010年1月12日に西半球の「最貧国」ハイチを襲ったM7の大地震。カリタスジャパンは発災直後の緊急支援に26,860,000円、続く復興支援としてカリタスチェコがレオガンで実施する「生計手段回復プロジェクト」へ16,756,000円（1年目）の支援を決定しました。レオガンは震源地に最も近い都市で、建物の90%が倒壊するなど首都以上に被害が大きかったにもかかわらず、支援が遅れていたところです。今般、この活動の2年目に13,309,380円の支援を決定しました。同プロジェクトは「農業」「家畜飼育」「小規模事業」の三つから成っています。

●農業

ハイチは人口の6割が農業に従事しているにもかかわらず、耕作適地が全体の3分の1に過ぎず、また生産性の低い種や農業技術の問題などで、国内での食糧生産が十分ではありません。人口の58%が栄養不足の状態にあります。カリタスチェコは、選抜された受益者（農家）にトレーニングを実施し、その後種子と農機具を提供します。受益者はそれをもとに、自らが選んだ作物を栽培し、自家消費したり、余剰収穫物は市場で販売したりして、収入を得ることができます。

●家畜飼育

受益者はグループを形成し、このシステムやルールについて詳しい説明を受けた後、契約書を交わし、2頭の雌ヤギの提供を受けます。受益者は雌ヤギと繁殖センターの雄ヤギと交配させ、子どもを産ませます。生まれた最初の子ヤギはグループに返納され、次の受益者に提供されるか、または販売されます。ヤギ販売の収益で、センターの維持費やグループの有給スタッフの人件費を賄います。子ヤギの返納を義務づけることで、提供したヤギを食べたり、売ってしまったりするのを防ぐことができます。

●小規模事業

ハイチでは、インフォーマルエコノミー（国の政府など公の機関が把握していない経済活動）が全体の約85%を占め、この大部分が女性による経済活動です。例えば露天商は、まとめて仕入れた品物を小分けして販売しますが、今回の震災で商品の在庫を失い、商売を再開する手だてがありませんでした。起業を希望する受益者がグループを作り、事業の進め方についてのトレーニングを受け、事業計画を作成した後、マイクロクレジット（小規模融資）を利用して事業を展開していきます。

全ての活動は地域住民のグループ（CBO）単位で行われています。活動の持続のため、この住民組織の強化も主要な目的の一つとなっています。外部からの支援が、住民主体の活動となっていくことで、真の意味での地域の復興につながります。

啓発部会のページ

啓発部会では、以下の日程で、自死についてのセミナーとわかち合いを行う予定です。テーマ、講師など決定しましたら、カリタスジャパンニュース、ホームページなどでお知らせいたしますので、どうぞご参加下さい。(いずれも入場無料です)

2013年6月15日(土) 13:00~17:00 さいたま教区 大宮教会

「自死の現実を見つめて——私たちにできること」セミナーとわかち合い

2013年7月15日(月・祝) 福岡教区 伊万里教会

なお、その他の行事は以下のとおりです。

2013年6月21日(金)~22日(土) 日本キリスト教社会福祉学会

ノートルダム清心女子大学(岡山)で行われる第54回日本キリスト教社会福祉学会に参加。

6月21日(金)午後のシンポジウム「今日におけるキリスト教社会福祉の役割—希望の光が見える新たな社会づくり(2)」に、幸田司教が登壇します。



Ministry (ミニストリー) 2013年冬号 No. 16(キリスト新聞社発行)特集「自死と向き合う」にて、カリタスジャパン啓発部会の自死の取り組みが紹介されました。

また『自死の現実を見つめて』の抜粋が記事として取り上げられています。

カリタスジャパン 援助金交付先一覧

国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA)

(援助金は国際カリタスを通して、現地のカリタス救援本部に届けられます)

1. コンゴ民主共和国：北・南キヴ州武力紛争避難民緊急支援(EA37/12 CJ: 041-12)

援助団体：カリタスコンゴ(Caritas Congo)

¥ 837,600

東にウガンダ、南東にルワンダと国境を接し、同国東部に位置する北キヴ州は、その豊かな天然資源のために、部族対立や武装勢力の対立、周辺国の介入などにより絶えず紛争の場となってきました。昨年11月には反政府武装勢力M23とコンゴ政府軍との衝突により、多数の避難民が出ています。カリタスコンゴは1万人の避難者を対象に、衣類や日用品、食料など緊急救援物資の配布、そして必要な人々の保護を行います。

2.サヘル諸国：緊急事態への備え・対応能力強化支援(EA38/12 CJ: 051-12)

援助団体：カリタスブルキナファソ (Caritas Burkina) ￥1,264,600

マリ北部の情勢悪化を受けて、サヘル地域の4つのカリタス(マリ、ニジェール、セネガル、ブルキナファソ)は合同で緊急事態に備える体制作りに着手しました。緊急事態への対処や安全確保に関する取り決めなど特別な手腕を備えたチームを作り、各国の教区カリタスも含めて、よりよい協力体制のもと活動を進めていくための後方業務面の強化、情報の素早い分析や共有能力の開発を行います。

3.トルコ：シリア難民緊急支援(EA39/12 CJ: 052-12)

援助団体：カリタストルコ (Caritas Turkey) ￥1,195,100

シリア危機を受け、トルコは2012年11月時点で国内7つのキャンプに12万人を超えるシリア難民を抱えています。しかし、様々な理由で正式に登録されていない難民も多数おり、彼らは公営キャンプに住むことができず、物資などの支援も受けることができません。カリタストルコはこれらの人々に、食料クーポンや越冬のための物資、カウンセリング、医療サービスの提供を行います。

4.シリア：冬期緊急支援(EA40/12 CJ: 053-12)

援助団体：カリタスシリア (Caritas Syria) ￥1,264,600

2011年3月民衆の抗議運動に端を発したシリアの騒乱は、現在では事実上の内戦となり、50万人以上(2012年末には70万人超)が近隣国で難民、150万人が国内避難民となっており、人道支援を必要としています。多くの人々は精神的ショックや経済的困難を抱えており、国内では物価の高騰、食料や燃料の不足、子どもが学校へ行くことができないなど全国民が影響を受けています。カリタスシリアは今回の国家的危機をきっかけに組織体制を整え、本格的に活動を開始します。住居の確保、暖房器具や燃料、寝具や冬用衣類の提供など、冬に向けた支援を行います。

5.フィリピン：台風ポーファ災害緊急支援(EA42/12 CJ: 054-12)

援助団体：カリタスフィリピン (Caritas Philippines) ￥2,694,900

2012年中最強と言われる台風ポーファは、ミンダナオ北部を通過中3度上陸し、100万世帯(540万人)に影響を与えました。発災直後はこのうち17万8千人が173カ所の避難所に避難しました。その後避難者数は6,608世帯となりましたが、帰還した人々もシェルターでの生活を強いられています。カリタスフィリピンはこれらの被災者に食料、衛生用品や調理器具などの物資、シェルターの建設資材(ビニールシート、釘、現地の木材、ベニヤ板)を提供します。

6.パレスチナ：ガザ攻撃緊急支援(EA43/12 CJ: 055-12)

援助団体：カリタスエルサレム (Caritas Jerusalem) ￥1,195,100

昨年11月14日から8日間続いたイスラエルによるガザ空爆は、163人以上(市民103人と子ども

30人以上を含む)の犠牲者、1,700人以上(子ども431人以上を含む)の負傷者を出しました(イスラエル側の死者は5人、負傷者は219人)。また、学校、家屋、病院、その他公共の建物が破壊され、1,600人以上が家を失いました。パレスチナ自治区、特にガザ地区は今回の衝突以前から住民の健康、安全、福利が脅かされてきた地域です。現地カリタスエルサレムは、国および国際機関による医療、生活支援活動を補完すべく、医薬品、医療サービス、心理カウンセリング、衛生用品の提供、生活費の支援を行います。

7.ヨルダン：シリア難民支援(EA44/12 CJ: 056-12)

援助団体：カリタスヨルダン (Caritas Jordan) ￥898,300

シリア危機後、ヨルダンには23万人以上のシリア難民が町や村または難民キャンプに住んでいます。カリタスヨルダンは以前から難民問題を優先事項として取り組んでおり、度重なる戦争で近隣の国々から流入したパレスチナ人、イラク人などの難民を、医療、人道支援、教育、保護の側面から支援しています。今回のシリア難民に対しては、食料や日用品、医療サービスの提供、心理ケアを行います。

海外援助

1.ヨルダン：女性移住労働者のためのコミュニティセンター支援(CJ: 043-12)

援助団体：カリタスヨルダン (Caritas Jordan) ￥943,100

ヨルダンでは生活水準が上がった1980年代頃から主にアジア出身の外国人女性の雇用が増えています。多くは個人に雇われる家庭の使用人ですが、雇用主や仲介業者からの精神的・身体的・性的虐待、休暇なしの長時間労働、給与の未払いなど様々な人権侵害が報告されています。カリタスヨルダンは、首都アンマンのコミュニティセンターを拠点に、外国人女性移住労働者に対して、医療支援をはじめ、ケアワーカーや弁護士による個別カウンセリング・法的支援、仲間たちとの情報交換や自分たちの権利について知る場作り、乳幼児を抱えた移住労働者への生活物資支援などを行います。

2.ヨルダン：イラク難民とヨルダン人支援(CJ: 044-12)

援助団体：カリタスヨルダン (Caritas Jordan) ￥1,886,200

中東の中でも比較的安定しているヨルダンには、1991年の湾岸戦争を機に30万人、さらに2003年のイラク戦争後には45万人以上のイラク難民が流入しました。いまだ政情が安定せずイラクに帰国できない中で、現在でも約20～40万人がヨルダン国内におり、その半数以上が18歳以下の子どもです。カリタスヨルダンは首都アンマン他4カ所のコミュニティセンターで、医療や初等教育、職業訓練や就業支援を行っています。イラク難民の他、難民を受入れている貧しい地域に住むヨルダン人も対象に含め、子どもたちの交流などの平和構築にも力を入れています。

3.ネパール：子どもの平和教育センター支援(CJ: 045-12)

援助団体：カリタスネパール (Caritas Nepal) ￥ 1,279,942

ネパールでは子どもたちの栄養不足や生活環境の問題がまだまだ深刻で、貧しい家庭の子どもたちは小学校へ入学しても勉強についていけないことがしばしばあります。これらの問題に働きかけるため、同センターは2006年より就学前教育を始め、今年度も274人の幼児を対象に、給食を通じた栄養改善、健康な生活習慣や平和な心を育むための教育、保護者に対する家庭環境改善教育を行いました。その活動の成果は地方政府から認められ、その結果郡の教育局との連携が進み、センターは自立に向かって大きく前進しています。

4.カンボジア：若者の職業訓練センター支援(CJ: 046-12)

援助団体：カリタスカンボジア (Caritas Cambodia) ￥ 2,732,400

近年めまぐるしい経済成長を果たすカンボジアでは、職を求めて都市近郊へ移住してくる多くの若者が、技術不足を理由に「安定した職」に就くことができず、麻薬やアルコール依存に陥るなど、大きな社会問題なっています。カリタスカンボジアは、就職に困難を抱える若者を対象に、実践教育を取り入れた職業訓練を実施します。

5.ウガンダ：持続的農業支援(CJ: 047-12)

援助団体：カリタスウガンダ (Caritas Uganda) ￥ 4,045,216

根強く貧困が続くウガンダでは、特に女性の貧困が大きな課題となっています。同プロジェクトは、コミュニティレベルで農業技術を向上させ、女性や子どもにも届くための「より安定した食糧」を確保しながら、少しずつ現金収入を生み出していきます。同時に、女性のよりよい社会参加へも繋がります。

6.スリランカ：移住労働に関する提言・啓発支援(CJ: 048-12)

援助団体：カリタススリランカ (SEDEC - Caritas Sri Lanka) ￥ 1,846,800

長く続いた内戦が終わってようやく3年が過ぎた同国では、国内での就労の機会が少なく、多くの人々は海外への出稼ぎを望んでいます。しかし、出稼ぎ労働者の多くは、仲介業者に大金をだまし取られたり、労働契約が異なったりと、多くの問題に直面します。同プロジェクトは、人々の「出稼ぎに行きたい」と望む意思を尊重し、より安全な出稼ぎについて広く伝えるための活動を行います。

7.スリランカ：女性移住労働者啓発支援(CJ: 049-12)

援助団体：キャンディ教区カリタス (SETIK) ￥ 1,821,600

紅茶の産地で有名なスリランカ中部にある同地域は、英国植民地時代から続く大農園が多数存在し、現在も多くの労働者がそこで働いています。しかし厳しい労働の下、生活の苦しさから海外へ出稼ぎ

に出る人々も多く、特に女性は、移住先で雇用者からの虐待や賃金未払いなど深刻な問題に直面しています。同プロジェクトでは、専門機関と連携しながら、出稼ぎ労働者が抱える様々な問題の解決に取り組んでいます。また、残された家族や帰国者を支えるための活動も行っています。

8.ハイチ：地震復興(生計手段回復)支援(CJ: 050-12)

援助団体：カリタスチェコ (Caritas Czech Republic) ￥13,309,380
【本号4ページ参照】

国内援助

<東日本大震災>

1.仙台教区：介護ヘルパー 2級取得支援(CJ: 12-037)

援助団体：大船渡滞日外国人支援センター ￥1,795,000
当センターでは、震災によって仕事を失い生活に困窮する外国人のために、技能を身につけることによる再就職を目指して、介護ヘルパー 2級取得のための支援を行っています。第二回目の今回は宮城県亘理市で実施し、募集人員は15名です。12月から3月にかけて、地元の福祉専門学校に通って介護実務を学び、センターは事前に介護専門用語に関する日本語教室も実施します。カリタスジャパンは、このプログラムの必要経費を支援します。

2.さいたま教区：サポートステーション追加工事支援(CJ: 12-039)

援助団体：さいたま教区サポートステーション「もみの木」 ￥3,336,142
さいたま教区の現地活動拠点であるサポートステーション「もみの木」は、建設資金をカリタスジャパンが援助し、2011年末いわき市に設立されました。その後活動を進める中で、内装の変更やバリアフリーへの対応、外溝工事などの追加工事が必要となってきました。カリタスジャパンは工事費用を支援します。

3.さいたま教区：サポートステーション活動経費支援(CJ: 12-040)

援助団体：さいたま教区サポートステーション「もみの木」 ￥2,160,000
サポートステーション「もみの木」での活動は、被災者が憩える場所としてのステーションの提供、いわき市内の仮設住宅へ出かけての「出前カフェ」などです。いわき市には福島県内の他の地域から移動してくる被災者もあり、仮設住宅での支援の必要性が大きくなっています。カリタスジャパンは、2012年度の活動費の中から、申請された2012年12月～2013年3月分を支援します。スタッフ人件費、支援物資費用などが含まれています。

4.大阪教区：近畿・東北学生交流プログラム(CJ: 12-041)

援助団体：近畿カトリック学校連盟宗教教育研究部会

¥ 500,000

当連盟に属する学校の教師・生徒は、東日本大震災が発生した後、被災地を訪問するなどして支援活動を行ってきました。このたび、支援活動を通して出会った被災地の高校7校から23人の高校生を関西に招待し、高校生どうしの交流プロジェクトを企画しました。関西からは、連盟に属する学校から約30人の高校生が参加します。プログラムの中では、阪神淡路大震災について学ぶとともに、高校生たちが東日本大震災の体験を語ることも予定されており、大震災に遭遇した両地域の若者の今後の協力についても考えていきます。カリタスジャパンは必要経費の一部の支援を行います。

事務局より

カリタスジャパン フェイスブックページ 開設のお知らせ



カリタスジャパンでは、活動をより身近に感じていただくために、フェイスブックのページを開設致しました。

今後、カリタスジャパンの活動内容や情報を随時アップしていきます。

なお、フェイスブックは、カリタスジャパンのホームページから、〈カリタスジャパンフェイスブックページ〉または、青い〈F〉マークをクリックしていただくでご覧になれます。有意義な情報共有のためにご活用いただければと思います。

活動日誌

2013年1月11日(金)カリタスジャパン委員会

報告(1)東日本大震災対応 (2)スリランカ視察 (3)10-11月度収支および募金 審議(1)カンボジア視察、カリタスインドネシアワーキンググループ会議および視察承認 (2)2013年四旬節キャンペーングッズ承認 (3)援助案件 海外8件を審査、承認 (4)国際カリタス緊急支援要請(EA)6件を決定

2013年1月15日(火)啓発部会

報告(1)東日本大震災対応 (2)国内援助について (3)セミナー準備進捗状況 審議2013年度事業内容(「自死」のセミナー実施について)

2013年2月22日(金)援助部会

報告(1)援助実績 (2)東日本大震災対応 審議(1)国内援助ガイドラインについて (2)東日本大震災対応(中長期見通しについて、活動の評価について) (3)援助部会の会議の持ち方について (4)援助案件 国内(東日本大震災)1件を承認、海外10件を審査、5件を委員会へ付託、5件を却下 (5)国際カリタス緊急支援要請(EA)5件を決定

カリタスジャパンの活動へのご支援を今後ともよろしくお願い致します

〔2013年1月1日～31日の献金額〕	〔単位：円〕
四旬節献金	237,000
国内援助	1,020,817
海外援助	1,533,693
スーダン支援	50,000
東日本大震災	5,866,642
クリスマス募金	2,536,410
運営寄付	155,072
	11,399,634

カリタスジャパンの活動は皆様の日頃の募金と「四旬節 愛の献金」によって支えられています。募金専用の郵便振替用紙をご用意しておりますので事務局までご請求下さい。

なお、お名前にはフリガナをお書き下さり、グループ名・修道会名は正式名称でご記入くださいますようお願い致します。

Caritas Japan News

No.119(2013年4月号)

通算発行番号 No.301

隔月20日発行

郵便振替番号 00170 -5-95979

宗教法人カトリック中央協議会

カリタスジャパン

発行人 菊地 功

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

TEL 03(5632)4439 FAX 03(5632)4464

E-mail info@caritas.jp

ホームページ <http://www.caritas.jp>